

特別じゃないこと、はじめよう

hellō volunteer

トヨタボランティアセンター情報誌

「はろー/
ぼんてい」
/リニューアルしました！

スペシャルインタビュー

“トヨタランド”の仲間たちの
応援が力になる

チェアスキーヤー

森井 大輝

No.213
2017 winter

配布・GM・GL以上(グループ・組内回覧) 人事部配布承認済

hellō volunteer

「はろー/
ぼんてい」

No. 213 2017 winter

トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部
コミュニケーション室 社会活動推進グループ(トヨタボランティアセンター)

発行人: 市垣 直昭 編集人: 大洞 和彦
制作: サンマッセ(株) 印刷: トヨラーテス(株)

つなぐ
— TSUNAGU —

あなたの手が、その行動が、
誰かを助け、勇気づけ、笑顔に変える。
ボランティアで幸せをつなげましょう。

スーツでもできるボランティアがあります



ボランティア活動と聞くと体力を使う活動や
長時間の活動をイメージされるかもしれませんが、
しかし、普段着のまま手の空いた時間を使って
取り組めるボランティア活動もあります。
知的障がい者自立支援施設の
羊毛キーホルダー作りをお手伝いする活動には、
多くの従業員が参加してくれました。
自分の趣味や特技を生かしたり、
昼休みのちょっとした時間を使って、
一年に一回を目標にボランティア活動に
取り組んでみませんか。

【関連記事はP12を参照】



“トヨタランド”の 仲間たちの 応援が力になる

チェアスキーヤー / 東京本社渉外部 所属

森井 大輝 Taiki Morii

2018年3月、平昌パラリンピックが開幕。

障がい者アルペンスキーのトップアスリートである森井大輝にとって、5大会連続出場となる。

目指すメダルの色は金。

「相棒」であるチェアスキーに乗って

白銀の大地を疾駆する日も近い。

「トヨタランド」の大切な仲間たちの

熱い想いを胸に……

ものづくりに対する姿勢への
リスペクトでトヨタへ

薄暗いジムの中で黙々とトレーニングに励む森井大輝37歳。専属トレーナーであるベンチプレス国際大会優勝者・大谷進氏の指導のもと、フィジカルトレーニングに励む。鍛え抜かれた上半身、みなぎる筋肉。競技を始めたころは少女と間違えられるほど細かったというが、努力して肉体を改造した。

かたわらには大切な相棒のチェアスキーがある。下肢に障がいがあるスキーヤーのために考案されたアルペン競技のマシンで、正式名称はシットスキー。スキー板の上にバケットシートと呼ばれる座席を固定し、両手には短いスキー板をストックの先に付けたアウトリガーを装着して滑る。

2014年、森井にとって4度目の出場となったソチパラリンピック。日本選手団の主将として臨み、スーパードルフィンで銀メダルを獲得したが、満足のいく結果ではなかった。欲しかったのは金メダル。次の平昌で金をねらうには、パラアスリートにとって体の部ともいえるマシンの性能をさらに向上させる必要があると感じていた。

自らマシンの開発に携わることのできる新しい環境に身を置きたい。でも、どうすれば……。方向性が定まらないまま悩んでいた森井は、トヨタ自動車社長・豊田章男の言葉に出会う。「自分はクルマを市場に出す前の最後のフィルタである」と言われているのを聞いて、社長自らが先頭に立つてクルマづくりをしている企業姿勢に心を打たれまじた。トヨタであれば、僕にとってチェアスキーがどれだけ大切なものか、分かってくれるんじゃないかと。たとえタイヤ

は付いていなくても、走る・曲がる・止まるはスキーも同じ。もっといいチェアスキーを開発するヒントが溢れているんじゃないかと思ったんです」

森井はトヨタ自動車への移籍を決意する。だが、入社への道筋があったわけではない。無謀にも受け入れ先が決まらないまま辞表を提出した森井に、当時の所属先である富士通の上司は驚いた。「金メダルが獲れなかったので自暴自棄になったのか」と本気で心配されました（笑）。しかし、森井は諦めることなく「トヨタに入りたい。トヨタでなければいけない」という気持ちを周囲に猛アピール。もし企業に所属できなければ、引退を余儀なくされる状況であったが、なんとか人の縁を頼ってトヨタに入社できた。そのことを富士通の上司に報告すると大変喜び、前途を祝福してくれた。

20年間培ったチエアスキーづくりのノウハウと クルマづくりの技術をコラボレート

「森井の熱い想いと一緒にチャレンジしたい」トヨタの技術部が立ち上がった。森井が架け橋となりソチ大会でも使用した競技用機材を供給している日進医療機器株式会社愛知県北名古屋市のとの開発チームが発足、これまでのマシン改良のノウハウをベースに、森井がイメージする理想の滑りを実現するマシンづくりへの挑戦が始まった。

開発チームは、運動力学メカニズムや走行風の状態を解析し、森井へ滑走スタイルやセッティングについてアドバイスを。森井は評価ドライバーとなり、開発チームヘトレーニングやレースでのフィードバックをする。これまで経験したことのない改良アプローチ。長年の競技経験で身に付けた滑走時の状態が数値データとして表れることで、森井はコースのライン取りがよりはっきりとイメージできるようになった。

さらに今年は、トヨタのトップドライバーとして長年スーパーGT500クラスで活躍し、現在はTOYOTA GAZOO Racingアンバサダーやチーム・ル・マンの監督を務める脇阪寿一氏が運転するレーシングカーへの同乗体験も行なった。モータースポーツとチエアスキーには多くの類似点があることを体感。そして、チエアスキーの操作についてもはつとさせられることがあった。

「これまでの私は長年の経験からテクニックに自信があり、悪条件の下でもマシンをパワーでねじ伏せるようにして滑ってきました。でも、脇阪さんから『車が走りたいように運転している』という言葉聞いて、マシンがどんなふうに行きたいのか、マシンの声に耳を傾けて、気象条件や雪質の状態に応じた最速の滑りをチョイスすることが重要なのだとわかりました早速実践したところ、無理なエッジングがなくなり、素直な滑りができるようになった。」自分のマシンやスタッフを信じて滑ること、森井は自分に言い聞か



脇阪氏との同乗走行では
チエアスキーに直結する
数多くのヒントが得られた



森井選手の体を3次元形状測定

せている。

「今の環境は僕にとって『デイズ・ヒーランド』よりもずっと心が躍る場所。だから、『トヨタランド』と呼んでいます」デイズ・ヒーランドがそうであるように、トヨタは森井にとってワフワフが詰まった夢に最も近い場所なのだ。

改良アイテムが織り込まれたマシンでゲレンデを滑走するたびに、森井の胸は新たな期待と可能性に高鳴る。これまでの限界を超えてもっともっと良くしたい、その想いは開発チームも森井も同じだ。



2016-17ワールドカップ個人総合表彰式

平昌の金メダルで、 支えてくれたすべての仲間たちへ恩返しを

森井が親しみを込めて自社を「トヨタランド」と呼ぶ背景には、トレーニングや技術面のサポートだけではなく、精進でも申し分のない環境にあるからだ。

遠征中、試合結果を社員にメールで報告すると、5分と待たずに「おめでとー」「悔しかったね」などと返信がある。帰国して渉外部に行くと必ずだれかが声をかけてくれるし、みんなが集まって来てくれる。孤独な戦いを続けるアスリートには何より嬉しい、ホッとする瞬間だ。「応援してもらっているんだなと実感します。トヨタに入る前は一人で悩んで落ち込むこともあったけど、ここではだれかが疑問や悩みに答えてくれる。皆さんと一緒に滑っているんだと感じられそれがモチベーションにつながっています」と、森井はほほえむ。

移籍以降、障がい者アルペンスキーワールドカップ2015・16年シーズンと2016・17年シーズンで男子座位の個人総合優勝2連覇を達成した。2017年2月の白馬大会では、社内募集した応援ツアーに参加を希望した100人近い社員が駆け付けた。普段の何倍もの人が入り、森井の応援で湧き立つ観客席。奮い立った森井はスーパー大回転で見事優勝。日本で開催された9年ぶりのワールドカップで、表彰台の一番高い所に上ることができた。「長年求め続けた理想の環境が目の前にあります。競技生活21年目の今が最高に楽しいんです！」

まもなく開幕する平昌は彼にとって5度目の挑戦となるパラリンピック。「今度こそ」と高まる期待に金メダルへの決意は固い。「多くの人の支えでここまで来ることができた。結果を出すことで会社を支えてくれた仲間たちへ恩返ししたい」努力は決して裏切らない。多くの人々の熱い想いが詰まった「相棒」を優しく撫で、森井は金メダルへのスタート地点に立つ。

Profile

森井 大輝（もりいたいき）

1980年、東京都あきるの市出身。4歳からスキーを始め、アルペン競技でインターハイ出場を目標に練習に励んでいたが、1997年バイク事故で脊髄を損傷。リハビリ中に見た長野パラリンピックの選手たちの笑顔に感動し、チエアスキーの世界へ。2002年のソルトレイクシティ大会以来、パラリンピックに4大会連続出場。3個の銀メダルと1個の銅メダルを獲得。2014年のソチでは日本選手団の主将を務める。同年、富士通からトヨタ自動車に移籍。2018年の平昌大会で悲願の金メダルを狙う。

森井選手へ応援メッセージを贈ろう！

T-Wave 恩返し活動 → ボランティア → ボランティア_News内
森井選手へのメッセージ募集！をクリック



in my HEART

障がい者の方々が描いた感性豊かなアート作品をご紹介します。



くるみ割り人形

ぼくはいっぱい映画を観ています。くるみ割り人形も観たことがあります。

ねずみの王様が恐かった。ねずみが襲ってくるんだ。

最後はどうなったかなんてわからないけど、

本当に恐かったから、もうくるみ割り人形なんて観たくないよ。



Artist Profile

上田 匡志 Tadashi Ueda

1991年生まれ。大阪府在住。知的障がい。

学校時代より絵日記を描き始め、年を重ねるにつれ欲望を表現する手段へと変貌。チープ&ゴージャスな二極性を持つ画風は、観るものを納得させる力もあれば、解けないなぞなぞのようにモヤモヤが残ることも。年間100本もの映画を鑑賞し、昨日観た映画がモチーフになっているが、彼の味付けが加えられた昨日の映画は、もはや今日のオリジナルである。

hello volunteer

トヨタボランティアセンター情報誌

No.213 2017 winter

Contents

02 スペシャルインタビュー

チェアスキーヤー **森井 大輝**

“トヨタランド”の仲間たちの応援が力になる



07 in my HEART

上田 匡志／くるみ割り人形

08 ACTION トヨタボランティアセンターの活動報告ー

農福連携「田んぼ再生プロジェクト」支援ボランティア

トヨタバリアフリー講座

第7・8回 手話実践講座 ～聴覚障がいへの理解を深めよう～

第9回 佐藤圭太選手講演会/義足体験会

2017年スペシャルオリンピックス日本・愛知 夏季地区大会

第7回 エールラン



12 笑い愛 ー社内団体の活動報告ー

ちょいボラ! 始まりました

つくも園「ふれあい青空祭」運営お手伝い

アンテロープスの選手と一緒にウォーキング&ごみ収集



14 縁JOY

公益財団法人オイスカ 中部日本研修センター



About hello volunteer

本誌は、ボランティアに関する旬な情報を紹介することで、日々の活動を応援し、これからはじめようとしている方を後押しすることを目的に発行しています。ボランティアは決して特別なものではありません。その一歩を踏み出してみませんか。

トヨタボランティアセンターでは、
従業員(家族・OB/OGを含む)を対象に、
地域を取り巻く様々な課題の解決につながるような
自主活動を企画し、実施しています。

農福連携「田んぼ再生プロジェクト」支援ボランティア

八十八の苦労を分かち合い、 たわわに実った稲穂に、 ほくほくの笑顔こぼれる

11月4日、社会福祉法人 無門福祉会(以下、無門)の関係者とトヨタのボランティアら約20人が豊田市加納町の田んぼに集まりました。この日は、4月から一緒に育ててきた稲の待ちに待った収穫祭です。

無門は1987年から、豊田市を拠点に知的障がい者の生活支援を行っています。近年では、耕作放棄地の増加や農業人口減少を受け、施設利用者の就労支援策として農業を取り入れています。トヨタボランティアセンターでは、一人でも多くの従業員に障がいや地域課題を理解する機会を作りたいと考え、耕作放棄地で自然栽培を行う「田んぼ再生プロジェクト」へのボランティアを社内より募りました。活動は月に数回、主に土曜日の午前中に2時間ほど実施。従業員ボランティアは、2年間放置され地面が見えないほど草が生い茂った約1.5反の田んぼを任せられました。

4月には、草刈り、ゴミ拾い、水路の溝掘り、5月には代掻きと田植え、6～9月は除草をそれぞれ実施。そして迎えた実りの秋、いよいよ収穫のときです。重そうに垂れ下がる黄金色の稲穂に、全員からほくほくの笑顔がこぼれます。「まあ、やるよ!」無門の事務局 磯部竜太さんの号令で、ボランティアと利用者ら約20人が作業を開始。稲を刈り取った後に残る藁を腕いっぴきに抱え、ぬかるみに足をとられながら田んぼの端まで運びます。「見、単純そうに見える作業ですが、これがけっこうな重労働。そのうち、利用者の一人が、積み上がった藁の山に飛び乗って、ポンポンと飛び跳ね始めました。これも、藁のかさを減らす重要な作業です。田口くんはジャンプするのが得意だもんね」と無門のスタッフが笑顔で声をかけます。参加者全員で協力し、この日は約20キロ入りの米袋11袋分を収穫できました。



(上) 手植えを体験するボランティア / (下) せっせと藁を運ぶ



収穫を終え、みんなでパチリ



苗の扱い方を教えてくれる
施設利用者の藤井さん



稲穂を手に笑顔のボランティアさん

裸足で気持ちよさそうな
施設利用者の田口さん

日にち: 2017年4月～11月(全13回)
場所: 耕作放棄地(愛知県豊田市加納町)

従業員のべ108名参加



活動前の田んぼ



収穫期を迎えた田んぼ

初心者でも大丈夫。
まずはやってみよう!



MSボデー生技部
古俣 洋一郎さん

米作りの経験があったため参加しましたが、知識の有無はほとんど関係ありませんでした。最後に立派なお米が収穫でき、ボランティアも利用者も全員で盛り上がったことがとても嬉しかったです。実際行ってみると、いろいろやれることがあったり、逆に教えてもらえたり。まずは、ちよっとお手伝いしてみようかなという気持ちで十分です。興味が少しでもあれば、身近な活動に一度参加してみることをお勧めします。

第7・8回 手話実践講座 ～聴覚障がいへの理解を深めよう～

日にち:第7回:5月27日(土) 第8回:6月17日(土)
場 所:トヨタ会館(愛知県豊田市)

139名参加

「手」も口ほどにものを言いつつ!?

聴覚障がいへの理解を深める講座を開催。障がいに関する基礎知識や、職場などすぐに活用できる手話表現を学びました。参加者一人ひとりが、聴覚障がい者を普段からどのようにサポートすべきか、といった配慮をすべきかを考えるきっかけとなりました。



手話サポートメンバーが講師を補助



手話サポート
メンバーより
江里口 哲司さん

私は聴覚に障がいがありますが、少しずつ手話を学びたいと思っています。聴覚障がいがある従業員に共通する悩みはミーティングなどの場で会話が理解できず、職場で能力を十分に発揮できないことです。職場に手話ができる方が増えれば、状況は変わります。これからも手話実践講座のサポートを続けていきたいと思っています。



講師の
東京手話通訳等派遣センター
飛山 将紀氏

手話で拍手
会話に入れない
状況を体験

何を話しているんだろう?

トヨタバリアフリー講座

第9回 佐藤圭太選手講演会/義足体験会

日にち:9月9日(土)
場 所:トヨタ会館(愛知県豊田市)

81名参加
(従業員とご家族)

義足で走ってみよう!

障がい者陸上競技(短距離)パラリンピアンで生技管理部所属の佐藤圭太選手の講演会と義足体験会を開催。世界で戦う経験から、日本と海外での障がいに対する認識の違いなどを紹介していただきました。

ハード面だけでなく、ソフト面(心のバリアフリー)を充実させることが重要です。障がい者だから助けるのではなく、困っているから助ける、という思いやりの気持ちが、優しい社会を作り、東京オリパラの成功にもつながっていきます。



義足体験会
慣れるまでは
不安定



知的障がいのない人
ある人
ユニファイド

チャリティユニファイドランイベントとしてすっかり定着したエールランに今年もなんと総勢1,600名が参加。知的障がいのある人となない人の混合チームが20チーム参加した3時間リレーユニファイド、200組が参加した親子ランなど3競技が実施されました。また、ゲストとしてトヨタグループのドリームサポーターを務める小塚崇彦さんや安藤美姫さんが来場。抽選に当たったチームがゲストと走ることができる新企画も実施され、大いに盛り上がりました。



開会の挨拶



可愛いランナーを
サポート

2017年スペシャルオリンピックス日本・愛知 夏季地区大会

日にち:9月24日(日)
場 所:トヨタスポーツセンター(愛知県豊田市)

147名参加
(従業員45名)



陸上競技の進行

アスリートの召集

誰だってスポーツが好き!

知的障がいのある人たちがいきいきとスポーツを楽しむ場、日々の練習の成果を発揮できる場として開催されるスペシャルオリンピックス。その愛知夏季地区大会に多くの従業員がボランティアとして参加し、開会式から競技の進行、記録、応援など、アスリートが競技しやすい環境を整え、大会を盛り上げました。障がいを抱えながらもアスリートとして真剣なまなざしで競技に励む姿に、多くのボランティアが勇気づけられました。



ボランティアより
下川 勝彦さん

アスリートのがんばりに自然と笑顔に!
ボランティアは相手に寄り添うことが大切だとよく言われます。選手一人ひとりが異なった特徴を持っていますのでそれぞれに合わせたサポートを心がけました。また、ボランティアだからと線を引かず、みんなが一緒に楽しむことが大切だと感じました。まだまだボランティア活動の経験は浅いですが、今後でもできるだけ参加したいと思っています。



第7回 エールラン

日にち:9月30日(土)
場 所:MEGA WEB(東京都江東区)

1,600名参加
(従業員81名)



ランナーより
津田 明子さん

みんなの全力投球が感動に!
知的障がいを抱える方にスポーツの機会を提供しているエールランの企画に魅力を感じ、3時間リレーユニファイドに参加しました。チームで櫂をつないで走り終えた時の感動は言葉では表せないものがあり、走る方も応援する方もひとつとなった素晴らしい瞬間でした。障がいの有無に関わらず、同じ目標に向かって力を合わせるチームワークの大切さを改めて認識する体験となりました。



ランナーを
ゴールで
お出迎え



佐藤選手からレクチャーを受ける参加者

受講者より
雪田 幸宏さん
豊の 幸克くん

気付いた瞬間、世界が変わる

息子に障がいがある人に対する偏見の気持ちを捨てて欲しい、と思い参加しましたが、自分自身も「障がいがあるから親切にしよう」という気持ちが少なからずあったことに気付きました。バリアフリーというとハード面を思い浮かべてしまいがちですが、「心のバリアフリー」が重要で、みんなに浸透していれば誰もが住みやすい社会が実現できると感じました。

参加のきっかけはどんな理由であつても、参加してみても、気付くことがたくさんあると思います。



士別試験場

日にち:9月3日(日) 場所:障がい者支援施設「つくも園」(北海道士別市)

78名参加(トヨタ士別試験場より13名)



しべつ福祉会の方より

総合施設長 小笠原 英之さん
つくも園の縁の下(力持ち)

士別試験場の方々には毎年「ふれあい青空祭」でお世話になっており、中には第一回からお手伝いいただいている方もいます。施設で生活している者にとって地域との交流はとても大切なことです。これからも士別試験場の方々と交流を深め、地域社会で生活するためのきっかけにできればと思います。これからもよろしくお願いします。

フランクフルトも完売間近

つくも園「ふれあい青空祭」運営お手伝い

青空の下、地域とのきずな深める
このお祭りは、障がいがある方々と市民が交流する場として、今年で26回目の開催となりました。ステージ企画をはじめ、施設利用者が作った工芸品や農産物の販売、マグネット作り体験などたくさんさんの催しがあり、すべての参加者が楽しいひとときを過ごしていました。従業員ボランティアは、駐車場での案内やゲーム・露店のお手伝いなどを行いながら、参加者のみなさんとの交流を楽しんでいました。



フォークダンスの輪の中へ



今日はみんな笑顔がいっぱい

名古屋オフィス

日にち:5月27日(土) 場所:名古屋オフィス 葵体育館(ともに愛知県名古屋市)

31名参加(従業員とご家族21名、アンテロプスの選手10名)



ゴールまであと少し



皆さん、いい汗をかきました!

校通りの歩道を清掃中

アンテロプスの選手と一緒にウォーキング&ごみ収集

一緒にやれば笑顔100倍
従業員に楽しみながらボランティアに取り組んでもらおうと、女子バスケットボール部アンテロプスの選手たちと、名古屋オフィスからアンテロプスが練習に使用している葵体育館までの約3.6kmをウォーキングしながらごみを拾いました。その後、体育館でフリースロー対決を行うなど、交流を深めました。

地域の方々に感謝の気持ちを込めて

今回このような機会をいただき、いつも応援してくださる地域の方々へさやかながら感謝し、でき一緒に街を築いている存在のひとつになったように思います。これからも「応援していただけるチーム」になれるようがんばります!



選手より

TOYOTA



ボランティアより

サビスパーツ物流部 桜井 富美子さん

楽しんだもの勝ち! 憧れのムチャ選手やハル選手と会話をしながら参加でき、大変貴重な体験となりました。活動の最中、街の方から「トヨタさん、ご苦労様」と声を掛けていただき、私たちの活動を喜んでいただけた地域の方がみえるのだと嬉しくなり、また、今回は皆さんもぜひ参加してみてください!



社内団体の活動報告

各職場

のべ1,800名参加

日にち:2017年4月~ 休憩時間を利用 場所:トヨタ自動車 本社地区 ほか

ちょいボラ! 始まりました



ちょいボラ!は仕事や家庭の都合でなかなかボランティア活動に参加できない従業員でも気軽に参加できる、お昼休みの約30分間を利用した活動です。今回は、知的障がい者の自立支援をする福祉施設「ジョイナスたかおか」の「羊毛フェルトキーホルダー」製作工程の一つである羊毛のごみ取りをお手伝いしました。
売り上げの一部が利用者の賃金となるため、施設として「少しでも早く再開したい」と思っている、障がいのある方ではやりきれない作業は施設職員やご家族が仕事や家事の合間に行なっているため、製作が滞っていました。
「簡単にできようとした時間でも福祉施設のためになると次第に参加者も増え、職場単位での実施も広がっています。」



ちょっとした時間でも地域に貢献できることがわかりました

こういう施設があることを知れてよかった

育児の都合で時短勤務のため、会社にながら活動できるのはありがたい

こんなに手間をかけて製作しているのに驚いた

商品になるまでの工程

01



ごみ取り前

02



ごみ取り後

03



羊毛の塊をほぐす

04



成形 (ケースに入れて振って丸める)

05



成形終了

06



加工して完成!

現在も活動してくださる職場を募集中です!ご連絡お待ちしております

トヨタボランティアセンター TEL.811-3-3586(内線)

「社福豊田市育成会」ジョイナスたかおか 鈴木 美彩さん



「社福豊田市育成会」ジョイナスたかおか 副島 英雄さん



「社福豊田市育成会」ジョイナスたかおか 施設長

「社福豊田市育成会」ジョイナスたかおか 施設長

会社にながら、ちょっとした時間にできるボランティア

Volunteer Schedule

1月	2月	3月	随時
 1/20 第11回トヨタバリアフリー講座 [LGBT(性的少数者)ってなんだろう?] 「ありのままの自分で生きていける」 ともに幸せに暮らす社会をつくるために、一緒に学んでみませんか?	 2/25 祝卒業 旅立ちセミナー 児童養護施設を卒園し進学や就職で社会へ出る中高生を三菱商事(株)のボランティアとバックアップ。	 3/17 第12回トヨタバリアフリー講座 「バリアバリュー」 「ユニバーサルデザイン」 ってなんだろう? バリア(障がい)をバリュー(価値)に変えていく!心のバリアフリーを新たな視点で学んでみませんか?	 ちよいボラ! “ちょっと”した時間で“ボラ”ンティアしてみませんか?お昼休みや終業後に気軽に参加できます。職場単位での活動も受付中! 【関連記事はP12を参照】
	~2月末 全社収集ボランティア キャンペーン2017 ペルマークや書き損じはがきが、ご家庭に眠っていませんか?ぜひ寄贈してください!	3月末 アカウミガメ 産卵地保全活動 表浜海岸(愛知県田原市)を安全な産卵地にしてウミガメを呼び戻そう。	

ボランティアに参加してみませんか?

ボランティア募集情報・講演会情報を掲載中です。ぜひご活用ください!!

■恩返し活動HP

<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/25/Pages/AG/Ongaeshi/Ongaeshi.aspx>



■スマイルゆうネット

トヨタグループ9社[(株)豊田自動織機・トヨタ自動車(株)・(株)ジェイテクト・トヨタ車体(株)・豊田通商(株)・アイシン精機(株)・(株)デンソー・トヨタ紡織(株)・豊田合成(株)]で運営しているボランティアネットワークシステム



PC・ケータイからさっそくアクセスしてみよう!

スマイルゆうネット

チェック!

※閲覧はできますが、活動に申し込むにはIDとPWが必要です。お気軽にトヨタボランティアセンターまでお問い合わせください



バックナンバー

トヨタ公式企業サイトからご覧いただけます

はろーぼらんていあ

チェック!



No.212



No.211



No.210



No.209

発行= トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部
コミュニティレーション室 社会活動推進グループ
(トヨタボランティアセンター)

〒471-8571 愛知県豊田市トヨタ町1番地
TEL:0565-23-3589(外線) 811-3-3589(内線) FAX:0565-23-5748
<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/98/volunteercenter/SitePages/TOP.aspx>

公益財団法人 **オイスカ** 中部日本研修センター



緑を育て、人を育てる

オイスカ中部日本研修センターでは、アジア太平洋地域から若者たちを招き、彼らが地域のリーダーとなるよう約1〜2年にわたって様々な研修を行っています。例えば、センターに隣接する研修農場では農業や化学肥料に頼らない有機農業に取り組んでいます。その他にも、国際交流会や海外植林ツアー、講演会の開催、社員研修、チャリティバザーなどを実施しています。こうした活動は、様々な立場のボランティアの協力で成り立っています。現在、日本語指導、樹木の剪定、ベッドメイキング、調理指導などのボランティアを随時受け付けております。オイスカの「人づくり」にぜひ力をお貸しください。

DATA

代表者 村松 明
設立 1967年
住所 〒470-0328
愛知県豊田市勘八町勘八27-56
人数 13名
連絡先 Tel 0565-42-1101
Mail chubu@oisca.org

TOPICS

2017年12月〜2018年2月まで、
全社収集ボランティアキャンペーンを実施します。
ペルマークや使用済みインクカートリッジを
集めて海外の子どもたちに苗木*を贈りましょう。
※ペルマーク100点またはインクカートリッジ20個が
苗木1本分に相当



植林親善大使との交流会

緑
えん-じよい

File
01

トヨタ自動車従業員が有志で活動しているボランティアサークルや、
協働しているNPO、連携しているボランティア団体の活動を紹介します。